



地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

愛ランドまーい

人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

ユイマールの精神で村おこし

読谷村字渡慶次^{とけし}には、法人化された自治会の下、婦人会や青年会、青洋会(老人会)など十六の団体が組織されています。各団体は独自の活動を展開する一方、助け合いのユイマール精神で、互いの活動を支えあっています。例えば、農業同好会が子ども会育成会の農業体験学習で、土地や苗を提供し、植え付けの指導などを行っているのもその一つです。

そのユイマールの精神がもつとも発揮されるのが毎年十月に開催される「渡慶次まつり」です。今年で第二十二回を数えたこの祭りは、昔から同集落で行われてきた、「土産祝い」や「観月会」、農作物を展示し審査する「共進会」などの年中行事を一つにまとめたものです。



昭和60年第1回渡慶次まつり家族の様子。

ぶりをかせています。祭りの運営は、各団体の代表者により組織されたまつり実行委員会があたります。公民館ホールには、農作物が展示され、その出来具合を競います。また舞台発表には、エイサーや獅子舞などの伝統芸能、オリジナル創作劇等が披露され、屋外では家族対抗ゲートボール大会などのユニークな催しも開催されます。



農業振興に貢献し、伝統芸能継承の場「渡慶次まつり」 読谷村字渡慶次の組織活動

昭和31年にコンクリート造の集落センターが建てられるまでは、茅葺きの事務所でした。建築に際しては、集落の青年会が奉仕作業に参加しました。

農林水産祭・むらづくり部門で天皇杯受賞

渡慶次集落は、読谷村の北西部にあり、「人を思いやる心づくり・むらづくり」をキャッチフレーズに農業を中心としたむらづくりに力を入れています。昭和五十一年に軍用地が返還されると、住民はユイマールの精神で荒れた土地を整備し、上流ダムからのかん水を可能とするなど、生産基盤の整備に努めました。ハウス栽培の導入などによる農業生産額の大幅な増加とユイマール精神による地域の諸活動の活性化が評価され、平成十七年には、農林水産省が主催する「農林水産祭」のむらづくり部門で天皇杯を受賞しています。



現在の渡慶次集落センター



平成18年4月、天皇杯受賞記念碑建立及び除幕式が開催されました。



美しい自然と沖縄の伝統文化が受け継がれた村、読谷村

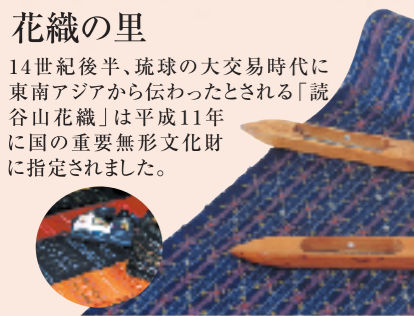
読谷村は、「恒久平和」「自主自立」「共生持続」を村づくりの基本理念とし、「ゆたさある風水、優る肝心、咲き誇る文化や、村の指針」を村づくりの目標に掲げています。子供から大人まで琉球古典音楽や島唄が盛んで、伝統工芸が継承されている村です。



世界遺産「座喜味城跡」
平成14年2月2日に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとしてユネスコの世界遺産に登録されました。村民の芸術劇場としても使用されており棒交流会、組踊、演劇、オペラなどが繰り広げられます。



農業
村の特産品として定着している紅イモをはじめ、メロンや小菊の生産が伸び、メロンや小菊については、県外へも出荷されています。



花織の里
14世紀後半、琉球の大交易時代に東南アジアから伝わったとされる「読谷山花織」は平成11年に国の重要無形文化財に指定されました。



やちむんの里
壺屋の窯元が移り住んで里が造られ、いまや壺屋に次ぐ焼き物の拠点として読谷の地に根差しています。

読谷村の概要
読谷村は、沖縄本島中部の西側にあって北は恩納村、東は沖縄市、南は嘉手納町に隣接します。東側は、緑濃い山並み、西側は東シナ海に面し、南は「比謝川」を境とし、北は「残波岬」に囲まれた、美しい自然と豊かな伝統文化に育まれた村です。